

令和5年第5回 福津市議会定例会一般質問（令和5年9月）

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|-----------------------|--|----|
| 1 | 中村 清隆 | 1 未就学児の教育保育と子育て環境について | <p>本市は、人口の急増に伴い様々な問題が生じている。その中でも、小学校や中学校に関しては、公立として、配慮が行き届くように取り組んでいるところがみられるが、保育園や幼稚園、認定こども園に関しては、配慮が行き届いていないように感じる。特に、現代社会において、園や保育士、幼稚園教諭等に求められるものも多く、厳しい現状が垣間見れる。幼児期の教育保育は、その後の成長に最も影響を与えとも言われている。この大事な時期を市として、どのように考え、方向性などを定めているのか、以下の点について見解を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 未就学児が通う施設の現状と課題は ② インクルーシブ保育の現状と課題は ③ インクルーシブ保育に関しての人員配置の考えは ④ 補助金制度の現状と課題は ⑤ 未就学児の保育や教育に関する子育て環境の充実の考えは | |
| | | 2 屋内運動施設の環境整備について | <p>地球温暖化の影響なのか、酷暑も続き、毎日とろけそうな日が続くこのご時世で、外で直射日光を浴びながらの運動は、とても耐えられない状況である。</p> <p>屋外はほぼほぼ防ぎようがないが、屋内においては防ぐ事が可能である。福岡県はスポーツ立県をうたい、構成する自治体も当然その要員を担わなければならない。スポーツは、体力の維持向上や、介護予防、競技力向上を図り、屋内運動施設は、災害時の避難所としても利用される。そこで以下の点について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 体育センターや武道館、各学校の体育館は、運動施設として、また避難所として一年を通して安全に利用できる施設なのか。 ② 国の補助金などの考えは。 ③ 他の自治体の体育施設のエアコンの設置状況を把握しているか。 ④ 今後の施設の暑さ対策の考えは。 | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|------|--------------------------|---|----|
| 2 | 榎本 博 | 1 東福間駅周辺地区の拠点整備と基本方針について | <p>第2次福津市都市計画マスタープランの拠点整備の方針では、「市民の生活拠点となり、人々をひきつける賑わいと魅力を担う3つの拠点（福間駅周辺地区・津屋崎地区・東福間駅周辺地区）は、それぞれの性格付けや役割分担に応じたまちづくりをすすめ、これら3つの拠点の利便性や活力が市全体の暮らしの向上と活力維持につながる『集約型都市構造のまち』を形成することを目指します。」とある。</p> <p>この基本方針と、主要施策の地域拠点として位置付けられている「東福間駅周辺地区」の主な事業について伺う。</p> <p>(1) 3つの拠点のそれぞれの性格付けや役割分担に応じたまちづくりをすすめ、3つの拠点の利便性や活力が市全体の暮らしの向上と活力維持につながる「集約型都市構造のまち」について</p> <p>(2) 東福間駅周辺の主な事業と取組みについて</p> <p>① 未利用地の活用等による駅周辺整備の検討及び推進について</p> <p>② 交通の結節点としての機能充実について</p> <p>③ 東福間駅周辺の住宅地の再生について</p> <p>(3) 東福間駅周辺地域にぎわい再生計画策定の経過と今後について</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|-------------------------|---|----|
| 3 | 戸田 進一 | 1 大雨時の溢水対策について | <p>今年の梅雨時期の大雨で、市内3ヶ所で河川が溢れ、道路等が浸水した。溢水を繰り返ししている箇所もあり、今回の溢水の状況と今後の対策について伺う。</p> <p>① 福岡県管理河川の本木川について ② 井尻川及び苅目川について</p> | |
| | | 2 議会答弁の検証について | <p>本市市議会の議員一般質問に対して、執行部が答弁してきているが、その後、実際に答弁通りに実施されているのか、以下の2項目について伺う。</p> <p>① 地域分別収集の3つの課題について 住民の高齢化により収集場所までもっていくのが困難になっていることや当番も大変になっていること、さらに自治会未加入者のゴミ受入れについて。 ② 学校給食のアレルギー対応について</p> | |
| | | 3 学校過密対策及び教職員の長時間勤務について | <p>学校の過密対策として進行している宮司地区の小学校建設計画、また市内の過大規模校及び大規模校への対策、さらに、学校で働く教職員の長時間勤務について市の考えを伺う。</p> <p>① 新設校建設予定地の安全性評価や市民・保護者への説明等について ② 大規模校・過大規模校の現状と過密解消対策等について ③ 教職員の長時間勤務の実態と改善について</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|--------|----------|--|----|
| 4 | 井手口 忠信 | 1 防災について | <p>急速な地球温暖化がもたらす気候変動により、近年、自然災害が頻発している。短時間雨量の増加や被害の広域化、激甚化により、防災体制の強化が急務とされている。そして、市民の生命や財産を守る自治体の果たすべき役割が益々重要となっている。</p> <p>そこで、本市における防災体制の現状と対策について以下の点を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小・中学校の全市一斉休校は、どのような基準で発令され、どのように全児童・生徒・保護者へ伝達されるのかを伺う。 ② 防災知識の普及や防災意識の啓発について、市はどのような取り組みを実施しているのかを伺う。 ③ 「福津市地域防災計画」に基づく防災訓練の実施状況、訓練の検証について伺う。 ④ 緊急時に災害対策本部となる庁舎の非常用電源の連続稼働時間を伺う。 ⑤ 豪雨時に土砂災害のリスクが高いとされる放置竹林について、市はどのような対策を行っているのかを伺う。 ⑥ 市が管理する氾濫危険河川について「緊急浚渫推進事業債」を活用した浚渫工事を行い、氾濫回避の対策を講じるべきと考えるが、市の見解を伺う。 ⑦ 災害に強いまち福津市として、「緊急防災・減災事業債」を活用し、災害への備えを強化すべきと考えるが、市の見解を伺う。 | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|---------------------|---|----|
| 5 | 大山 隆之 | 1 福津市基幹相談支援センターについて | <p>本市では本年度より、基幹相談支援センターの運用が始まった。本市の基幹相談支援センターの現在の状況について以下の点を問う。</p> <p>① 当初の目標値として相談件数1,200件が目標と令和5年度主要事業の概要で記載されているが、半期経過し相談件数はどれくらいか。</p> <p>② 半期の中に、相談内容としてどのような内容が多い傾向にあるのか。</p> <p>③ 相談者を適した施設へマッチングした件数は。</p> | |
| | | 2 福津市地域活動支援センターについて | <p>① 地域活動支援センターはⅠ、Ⅱ、Ⅲ型と種別があるが、福津市として委託している事業所はいくつあるのか。</p> <p>② 地域活動支援センターへは本市はどのような活動を期待して委託をしているのか。</p> <p>③ 年間の予算編成を見ると委託費用が数年変わっておらず、またとある事業者から聞くと10年以上変更がないと聞いているが、その理由は。</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|------|---------------------|---|----|
| 6 | 岩下 豊 | 1 第3次福津市行財政改革大綱について | <p>本市は令和3年度から令和7年度までの期間で第3次福津市行財政改革大綱の取組みを進めている。改革の理念を『未来につながる創造的な行政経営のための改革』として、31項目のメニューを策定し取組んでいる。地方公共団体は住民の利益と福祉の増進を目指すことが重要であり、地方自治法でも『地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として』で始まっている。</p> <p>そこで以下について市の考えを伺う。</p> <p>① 行財政改革を行うことでの市民のメリット・デメリットは ② 第3次福津市行財政改革大綱の取組みの進捗は ③ 公共施設使用料改定についての現状 ④ 夕陽館の現時点での進捗状況 ⑤ 公立大和保育所の今後について</p> | |
| | | 2 神興幼稚園について | <p>本市唯一の公立幼稚園である神興幼稚園について今後の運営等について市の考えを伺う。</p> <p>① 公立幼稚園の存在意義は ② 令和2年の福津市立幼稚園運営審議会の答申を受けて、この間実施したことは ③ 神興幼稚園の今後の運営方針は</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|--------|----------------------|--|----|
| 7 | 石田 まなみ | 1 子どもの権利を守るための施策について | <p>日本では、平成6年に子どもの権利条約が批准され、その後、こども施策を社会全体で総合的かつ強力で推進していくための包括的な基本法として、令和4年6月にこども基本法が成立し、令和5年4月から施行されている。</p> <p>子どもの権利条約も、こども基本法も、子どもを1人の人間として、いじめや虐待などから守ること、すなわち子どもの人権を守る旨が記載されている。</p> <p>子どもの人権侵害を救済し、子どもを取り巻く環境を調査し、生きづらさを解消し、子どもが健やかに成長するための手助けをするための、子どもの権利救済機関を設置する自治体もある。</p> <p>これを踏まえて以下を伺う。</p> <p>① 本市の学校現場を含む、子どもの権利を救済する機関としての体制の現状と実績は</p> <p>② 現場から見える子どもたちを取り巻く環境の変化は</p> <p>③ 現行の体制の課題と今後の対策は</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|------------------------------|--|----|
| 8 | 米山 信 | 1 津屋崎行政センターについて | <p>津屋崎行政センターについては、一度庁議において令和3年度末で廃止することが決定された。しかしながら、庁舎統合を行なうにあたり、行政センターが津屋崎エリアの行政拠点であることが要件の一つになっていたことから、市民の意見を聴く機会も設けずに廃止を決定したことについて、多くの市民と議会の反発を招いた。また、決定に至るまでのプロセスに問題があると多くの市民から厳しい意見もあった。これらのことを踏まえて、市民の意見を聞きながら行政センターのあり方を再検討することになったと認識しているが、この件について、次のとおり質問する。</p> <p>① 市民の意見を反映させるため、行政センターの今後の方向性について市民アンケート調査を実施しているが、このアンケート調査結果を行政センターのあり方にどの様に反映させていく考えか。</p> <p>② 平成28年度に庁舎を統合して以来、人口の増加により、窓口業務が増加し、大変混雑する日も見受けられるが、庁舎統合後の窓口業務はどのくらい増加しているのか。</p> <p>③ 合併した市町村には、支所に要する経費が地方交付税に加算されていると思うが、その金額はいくらか。</p> | |
| 9 | 中村 恵輔 | 1 カーボンニュートラルへの取組みと市のビジョンについて | <p>市は2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指し、令和4年12月17日にゼロカーボンシティ宣言をした。この宣言をより実効性のあるものにするために、市の目指すビジョンと脱炭素化に向けた具体的な取組みについて伺う。</p> | |
| | | 2 学童保育の現状と今後について | <p>学童保育において、児童数増加による待機児童が発生しており、早急な対応が望まれる。市内の学童保育の現状を的確に把握し、時代のニーズに即した取組みも求められている。市の学童保育の在り方や、今後の方針について伺う。</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|------------------------|--|----|
| 10 | 尾島 武弘 | 1 第3次福津市行財政改革大綱について | 令和3年11月に示された第3次福津市行財政改革大綱は、市民生活の質の向上と市の成長にとってより必要性が高い施策、事業への重点化を図ることにより、次世代に住みよいまちを引き継ぐため、その理念や基本を明確化したものである。 そこで、今回の行財政改革の進捗状況と問題点を伺う。 | |
| | | 2 公共施設使用料設定に係る基本方針について | 公共施設の使用料改定は、令和3年9月定例会と令和5年3月定例会で全議案否決された。今後どのように使用料改定方針と公共施設使用料改定に係る基本方針の内容の見直しを行うのか。また、市民への説明をどのように行っていくのか伺う。 | |
| | | 3 地域計画について | 令和4年5月に、農業経営基盤強化促進法等が改正された。「人・農地プラン」の名称は「地域計画」と改められ、地域の話し合いが法律に基づく取組みになった。地域の農業を持続させていくための方針と、併せて、「目標地図」という、農地ひと筆ごとの10年後の耕作者の計画を立てることとされているが、本市の地域計画策定スケジュールと、今後考えられる問題点を伺う。 | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|---------------------------|--|----|
| 11 | 豆田 優子 | 1 教育の機会を均等に享受するための取組みについて | <p>教育基本法第4条第2項には、「国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な支援を講じなければならない。」とある。そこで以下の事について伺う。</p> <p>① 通級指導教室への通学は保護者の送迎が必要とされているが、送迎が出来ない状況の子どもへの支援は。また、のびのび発達支援センターへの送迎が出来ない状況の子どもへの支援は。</p> <p>② 不登校児童・生徒の受け入れ場所として、教育支援センターやフクスタがあるが、ひとりで行けない子どもへの支援は。</p> | |
| | | 2 子どもたちの未来のための取組みについて | <p>5月に開催された教育懇話会で、「福津市コミュニティ・スクール充実・発展に係る小中連携強化の方策と教育環境整備について」の再答申が出された。6月定例会では、新設小学校建設予定地の財産取得が可決され、新設小学校建設は大きく動き出した。学校過密化問題は解消に向けてすすみだしたように見える。このことを踏まえ以下の事について伺う。</p> <p>① 新設小学校基本設計の中にワークショップの意見は、どのようにいかされるのか。</p> <p>② 学校過密解消に向けて、当事者である子どもたちの声をどのように聴き、どのように反映させていくのか。</p> <p>③ 当該地域を含む住民説明会の開催は。</p> <p>④ 市民への周知は。</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|--------------------------|---|----|
| 12 | 福井 崇郎 | 1 持続可能な農業の推進について | <p>本市では農業を基幹産業と位置付けている。第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、農業の振興を掲げている。持続可能な農業に向けて、生産性の向上、新規就農者・後継者支援など担い手支援、販路の拡大、食育の推進が必要である。そこで、以下の点について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市長2期目の農業政策の2年間の評価と今後の取組み ② 肥料や農業資材高騰に対する支援 ③ 国の「みどりの食料システム戦略」について、有機農業も含めた推進状況 ④ スマート農業の推進状況 ⑤ 新規就農者・後継者支援の現状と課題 ⑥ 農産物とその加工品の認知向上や販路拡大など6次産業化の取組み ⑦ 地域の食文化や自然環境への理解や地産地消の促進のため、子ども達をはじめとした市民への食育環境の形成 | |
| | | 2 令和の日本型学校教育と教育環境の整備について | <ul style="list-style-type: none"> ① 国の中央教育審議会答申の「令和の日本型学校教育の構築を目指して」を本市でどのように評価し、福津市教育総合計画等に掲げる、福津市の目指す子ども像との関係において、どのような理念で取組んでいるのか。 ② この答申では、令和の日本型学校教育の2020年代を通じて実現すべき姿として、個別最適な学びと協働的な学びが掲げられ、その実現にはICTの活用が必要不可欠とされている。そこで、本市での9年間を見通した義務教育の取組みと今後の展開を伺う。 ③ 新時代の特別支援の在り方について、本市ではインクルーシブ教育の理念をどのように捉え、環境整備を行なっているのか。 ④ 新設校建設に向けた事業の進捗と今後の取組みを伺う。 | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|---------------------|--|----|
| 13 | 山本 祐平 | 1 保育園の災害時対応について | 本市では、大雨や台風により小・中学校や幼稚園が休みになる際も保育園は休園にならない。厚生労働省より令和2年7月17日付の事務連絡にて「臨時休園等の基準について策定をお願いいたします」とあったが、本市の臨時休園等の基準について伺う。 | |
| | | 2 幼稚園での課題と支援について | 本市では人口増加によりこどもの人数が増えているが、それに伴い支援が必要なこどもの人数も増えている。本市が把握する幼稚園での課題と支援策について伺う。 | |
| | | 3 福津の海を活用した地域産業について | まちづくり基本構想の「テーマ別目標像と2030年のイメージ」の項目、地域産業の一部で「持続可能な観光開発と農業・水産業の担い手育成、起業・継業者支援の取り組みが推進され」とある。それに関わる項目として、以下の点を伺う。 ① 福間漁港では船を係留出来る空きスペースがあるが、活用されていない理由と今後の活用案について ② 現在と10年前の漁師数と漁獲高の比較 ③ 水産業の現在の課題と支援について | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|-----------------------------|---|----|
| 14 | 中村 晶代 | 1 市民が安心して出産・子育てができる応援事業について | <p>国は「支援が手薄な0歳から2歳の低年齢期に焦点を当てて、妊娠期から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援の充実を図るとともに、地方自治体の創意工夫により、妊娠・出産時の関連用品の購入費補助や産前・産後ケア、一時預かり、家事支援サービス等の利用負担軽減を図る経済的支援を一体として実施する事業を創設し、継続的に実施する」としている。これを受けて市においても、出産・子育て応援交付金（伴走型相談支援&経済的支援）を開始しているが、円滑な支援ができていないか、以下の点を伺う。</p> <p>① 福津市の保健師・助産師は、妊娠7ヶ月頃アンケートを郵送やアプリ等で発信し、妊娠8ヶ月頃希望者には面談等で不安なく出産を迎えられるよう支援をしている。また産後は生後1～2ヶ月頃、乳児がいるすべての家庭に赤ちゃん訪問を実施している。大変重要な業務と思われるが、その業務に携わる保健師・助産師の人材確保はできているか。また、その後の子育て中においても相談支援が継続されているか。</p> <p>② 母子を取り巻く環境は著しく変化している。その変化に応じた産後ケア事業として、家事・育児を支援する「産前産後ヘルパー（育児サポーター）」派遣への要望が当事者から圧倒的に多いという現状があり、出産・子育て応援交付金の活用事例にも挙げられている。現状に対する市の考えは。</p> <p>③ 家事・育児を支援する産前産後ヘルパー（育児サポーター）は、妊産婦やその家族の相談相手にもなるため、心理的なサポートもできる人材が必要と考える。市民の中から「産前産後ヘルパー」を養成する仕組みづくりができないか。</p> | |

| 番号 | 氏名 | 質問事項 | 質問要旨 | 備考 |
|----|-------|-----------------------------------|--|----|
| 15 | 佐伯 美保 | 1 公平な教育環境整備に向けた小・中学校の過密解消対策について | <ul style="list-style-type: none"> ① 31学級以上の過大規模校に対する過密解消に向けての具体策等について問う。 ② 大規模校及び過大規模校からの校区外通学申請制度における申請状況とスクールバス導入等、制度推進に向けての具体策等について問う。 | |
| | | 2 郷づくり推進に向けた福津市郷づくり推進事業交付金について | <ul style="list-style-type: none"> ① 郷づくり推進に向けた市の支援策のひとつである福津市郷づくり推進事業交付金の算定基準と課題、対策等について問う。 | |
| | | 3 安心安全な学校給食の提供体制について | <ul style="list-style-type: none"> ① 学校給食用物資の選定基準と運用状況等について問う。 ② 学校給食におけるアレルギー対応体制と弁当持参の児童に対する今後の対応等について問う。 ③ 安心安全な給食の推進と農業政策との連携等について問う。 | |
| | | 4 人と動物と環境の健全性はひとつという「ワンヘルス」推進について | <ul style="list-style-type: none"> ① 本市におけるワンヘルス推進への認識と今後の取組みを問う。 ② ワンヘルス推進に向けた地域猫活動支援事業への認識と今後の取組みを問う。 | |